

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター三和担当圏域レベル 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 7 月 25 日 （ 木 ） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
2 開催場所	飯田市民サービスセンター A・B講座室
3 参加者	21名 委員 8 名（飯田地区3名、白脇地区5名）、関係機関7名、事務局6名
4 協議の内容	1.開会 2.会長・副会長の選出 3.会長挨拶 飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体 会長 4.委員紹介 5.協議紹介 ①「生活支援体制づくり協議体」とは 事務局より、生活支援体制づくり協議体について説明した。 - 生活支援体制づくり協議体の法的位置付け、世帯数、65～75歳以上今後の推移、飯田・白脇地区の世帯構成の変化、他圏域の取り組みの様子を共有した。 ② これまでの振り返り CSWより、令和5年度の飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体について報告した。 ③【意見交換】各地区における今後の取組について 地区ごとに分かれ、グループで意見交換を行った。 【飯田地区】 - 事務局より、6/17 飯田民児協研修における、民生委員・児童委員の把握している地域の状況についての聞き取り調査の共有をした。 - 家事支援の検討では、地区社協の負担を考慮すると、まずは既存のサービスを利用してもらいたい。また、高齢者が少しでも長く自分のことを自分で出来るようにするために、外出する機会を作ることが大切ではないか。 - シニアクラブの状況では、メンバーは、4～5年間、変わりが無い。会場に来ることが大変になっている。担い手の後進育成が難しい。誘っても、『まだ、早い』と断られることがあるという意見が出た。 - サロンで実施しているプログラムに体力的に難しい人もあり、無理して怪我をするリスクがある。 - 他の地域では、プログラムをあまり作らないカフェスタイルのサロンも広がっている。 - 高齢者が集える場として、昔のような井戸端会議ができる場所がないのでは。 - 地域の困りごとでは、サロンに来られない人の居場所はどこにあるか、既存サー

ビスの情報をどのように得るか、高齢者ごとに情報量に差がある、70 歳以上になっても働いている人がいるため、地域に馴染んでいない人がいる、介護保険の対象とならない人が日常生活に困難さを感じているのではないかな。 【白脇地区】 ・中学生を地域の行事、高齢者の居場所にどう巻き込んでいくかの話し合いが行われた。 →行事での何らかの役割(会計など)を持ってもらうのはどうか。 - また、夏休み等長期休暇を利用、公会堂などを活用して、学習の場を作る、サロン参加、地域活動へのボランティアをしてみるのはどうか。 ・学校に協力を求めた。学校内共有、保護者にも知ってもらいたい。 ・継続できるような取り組みができれば。 ・中学生が参加できる日時が良いのではないかな。 ・中学生の視点から考えると、積極的ではなく、恥ずかしいと感じる、部活・勉強などで忙しいのではないかな。 ・白脇地区の土地特性として、年 100 軒ほど新しい住宅が増えている。行事など若い世代がいるだけで活気づく。今後、隣人との付き合い、繋がりを考えないといけないのでは。 6.次回の協議内容について 日時：令和 6 年 11 月 19 日 9 時 30 分から 11 時 00 分まで 場所：白脇協働センター ホール 7.連絡事項 8.閉会 飯田・白脇地区生活体制づくり協議体 副会長	
5 今後の見通し・必要な対応	今回の協議体では、生活支援体制づくり協議体について説明した。また、今年度協議したいことについて地区ごとにグループワークを行った。 「白脇地区」 ・中学生をどのような所に巻き込んでいくか。 ・中学生の取り組みと高齢者事業をどう結びつけていくか。 「飯田地区」 ・既存サービスの振り返り ・地域の中の助け合い活動の検討 ・高齢者の外出の機会、地域参加の促進